

## 見学感想文

桜新町アーバンクリニック在宅医療部の見学を終えて  
台北聯合病院陽明区 看護部長 蔡衣帆

今回の日本医療介護機構の訪問で、桜新町アーバンクリニックを訪問、見学ができて、大変光栄に思い、心から感謝しております。

訪問医療に同行見学する中で、感動したのは、医師も看護師も患者さんの目線に合わせて動き、会話し、患者さんを中心にして行動することです。

特に、患者さんの目に届くところに毎日飲むお薬を分量を丁寧に細かく分け、飲む日付を間違わないように、カレンダー式の薬袋を作成して、日付けのある薬袋が壁に飾っていたことや、在宅訪問を一つのチームとして捉え、医療・看護・介護・家族が一緒に書き込む総合ノートで情報交換と連絡を取り合っていたことに感銘を受けました。

台湾では臨床時に使用している引き継ぎノートの概念を、在宅訪問でも有効に使うことで、訪問診療と訪問看護は患者さんのノートを通じて一体となり、「体の状態・医療・生活・介護・診療記録」が誰もわかりやすく全て中に書き記してありました。ノートを通じてそれぞれ協力し合い、分かち合い、問題解決につながり、みなさんが在宅医療の患者さんを診ていくという患者さんにとって在宅訪問でもっとも一番いいケアシステムであります。ノートで読む手書きの文字と文字間からみなさんが患者さんに対する心遣いの優しさと丁寧なケアが伝わってきました。

また、もっとも驚き、なおかつ見習いたいのは、訪問診療のカルテのシステム化で、地域連携（医師・看護師・薬剤師・介護士・家族）の統合情報システムです。カルテの記録において、訪問医療チームは訪問移動中の限られた時間の中でスマートフォンを使って診療の様子を録音し、その録音を育児や諸事情により現場で働けない看護師にカルテ化してもらうことにより、診療後のカルテ作成という大変な業務の手間が省かれて、訪問医療というとても大変な仕事が効率化していました。

それと同時に、医療看護全ての情報が iPhone を活用して統合システム化されており、桜新町アーバンクリニックの訪問医療看護チームが、いつ、どこへ行

っても、すぐに患者さんの情報をキャッチでき、時間を少しも無駄にしていま  
せんでした。

このように、全ての情報を病院・診療所・地域の薬局が協力し、統合してシ  
ステム化していくのは、とても大きな挑戦でもあり、非常に難易度の高い工程  
なのです。しかし桜新町アーバンクリニックの訪問医療チームはできました！  
iPhone のアプリを有効に使い、各職種のアプリを統合して「EIR」形式のページ  
を完成し、最も経済的でスピートも効率もある状況の中、各医療関係者と患者  
さんのご家族が「EIR」ページから、患者さんの診療過程や薬の情報を把握でき  
ます。「EIR」は歴史的に残る画期的なシステムとも言えるでしょう。

桜新町アーバンクリニックは、遠矢院長および代表取締役の大石様を始めと  
したすべてのスタッフのみなさまが、在宅訪問医療に新しい風を吹かせていま  
した。台湾長期介護チームが訪問できたことを光栄に思い、今後学んでいき  
たいと思っております。

最後にもう一度台湾台北市立聯合醫院陽明院区の見学チームを代表し、今回  
の見学を引き受け、暖かくご丁寧ご案内してくださったことを心から感謝して  
おります。今後みなさまもぜひ台湾へ訪問し、台湾の医療経験をみなさんと交  
流していきたいと思っております。

台湾台北がみなさまをお待ちしております。

2015年7月24日